

第2回循環資源利用促進税事業検証懇話会開催概要

- 1 開催日時
平成28年3月28日（月） 15時00分から16時50分まで
- 2 開催場所
北海道立道民活動センター（かでる2・7） 510会議室
（札幌市中央区北2条西7丁目）

- 3 出席者
（1）懇話会委員（敬称略、50音順）

所 属	職	氏 名	出 欠
北海道農業協同組合中央会	農業振興部長	浅野 正昭	出席
北海道大学大学院工学研究院	准教授	石井 一英	出席
北海道漁業協同組合連合会	環境部長 （部長代理）	井下 泰浩 （豊福 峰幸）	代理出席
北海道経済連合会	理事 事務局長	菅原 光宏	出席
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	環境エネルギー部長	高橋 徹	出席
公益社団法人 北海道産業廃棄物協会	副会長	寺嶋 忠雄	出席
北海道中小企業団体中央会	連携支援部副部長	馬込 毅	出席
一般社団法人 北海道食品産業協議会	専務理事	矢倉 武志	欠席

（2）事務局

所 属	職	氏 名
北海道環境生活部環境局循環型社会推進課	課 長	大林 純一
〃	主 幹	木村 尚司
〃	主 査	寒河江 正
〃	主 任	伊藤 知洋

4 開催概要

○大林課長より挨拶、趣旨説明

【挨拶要旨】

- ・本日は、（１）本道の経済情勢や産業廃棄物の状況と、（２）税事業の効果の検証について、事務局から説明の上、委員の皆様からご意見をいただく。
- ・また、（３）その他では、前回懇話会で委員の皆様から、ご指摘いただいた５点について、事務局から回答し、さらに意見をいただく。
 - ① 税事業の取組状況について（前回報告書参考資料７と同様に）
 - ② 廃止事業、追加事業についての経緯や理由
 - ③ アンケート調査の回答事業者区分ごとに集計した詳細
 - ④ 他府県の税収、税事業の概要
 - ⑤ 業種別排出量、業種別の申請、採択件数
- ・来年度は、見直しの年度ということで、年度前半に３回程度、開催予定。
本日も、様々なご提言をいただきたい。

（１）本道経済及び産業廃棄物の状況について

○資料３～７に基づき、事務局より説明。

○指摘

- ・再生利用率（ふん尿を除く）を上げることと最終処分量を目標（循環型社会推進基本計画）に向け下げていくことが税事業の目的。（石井座長）
- ・最終処分量などの要因の分析が必要、最終処分場と中間処理施設の関係性に地域的な（距離的な）課題がないか、種類別（汚泥等）に特徴はないか、経済状況の影響を解析できないか。（高橋委員、石井座長）

（２）循環資源利用促進税事業の効果の検証について

○資料８～１０に基づき、事務局より説明。

○指摘

- ・税事業の効果による再生利用量の提示に工夫が必要。（高橋委員）
- ・税の効果で最終処分量 20 万 t 減少がまだ少ないということであれば、業種別に戦略的に投資するなど効果的に運用していくことが重要。（菅原委員）
- ・新幹線の札幌延伸工事など将来的な要因を反映することが必要。（馬込委員）
- ・H26 以降、補助申請書様式の簡素化等による負担軽減が、中小事業者の採択増につながったようだが、よい傾向。（石井座長）

（３）その他

○資料 11～14に基づき、事務局より説明。

○指摘

- ・補助実績を業種別、種類別に整理することにより、これまでの効果や今後の課題が明確になる。（石井座長）

- 取組事例（補助事業の段階的活用）の周知拡大など情報の共有化を進め、さらに効果的な税事業とすべき。（石井座長）
- アンケート結果によると、排出事業者への働きかけが必要。（石井座長）
- 研究開発、産業創出、設備整備の連動や税事業の効果、研究開発の成果をさらにPRしていくことが重要。（浅野委員）
- 他県の事例を参考に環境整備なども視野に全体的な税事業のあるべき姿を議論すべき。（寺嶋委員）
- 次回以降、アンケートの要望への回答、他県の参考となる事例の検討、委員の意見交換などだが、報告書ペースでの提示が望ましい。（石井座長）

※事務連絡

○来年度は年度前半に3回開催予定。次回の懇話会は5月下旬、若しくは6月上旬に開催するので、年度明けに日程調整の連絡。